

注連縄にみる伝承形態の調査研究(V)

— 北 陸 地 方 —

A Study of Traditional Form "Shimenawa" (V)

— in Hokuriku Area —

佐藤 武 郎
Takeo Sato

河野 公 記
Masanori Kawano

まえがき

今回は北陸地方（福井県・石川県・富山県）で民間に伝承されている注連縄の形態をまとめたものである。

前回までの西日本各地の調査では予想以上の形態をみることができた。したがって北陸地方の注連縄に殊更斬新で異種の形態をみたわけではないが、しかし、富山県では注連縄の用法に「お国柄」の相違をみた。例えば、九州地方では玄関框に飾るが、富山県の場合には屋内に神棚を設けて注連縄を張り渡す。したがって街の家々を外部から見ても注連縄はみあたらないのである。

以下、本文で詳細を提示するが福井県の主流となる注連縄は「牛蒡ジメ」で石川県では「輪ジメ」と「牛蒡ジメ」の2種であり、富山県では「牛蒡ジメ」「一文字ジメ」「輪ジメ」の3種であった。

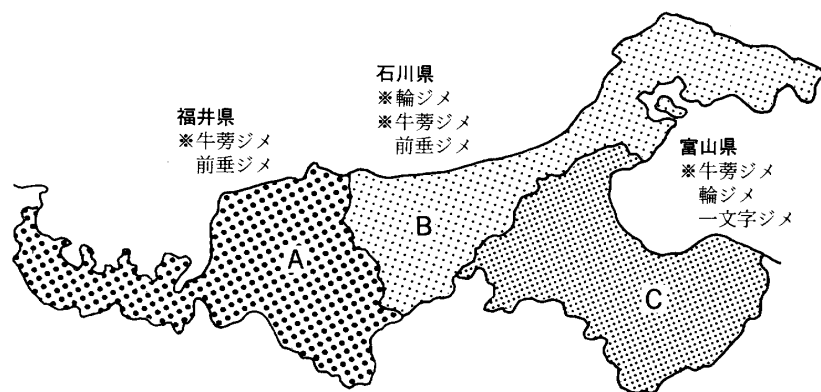


Fig 1 北陸地方注連縄の形態分布図

I. 研究目的

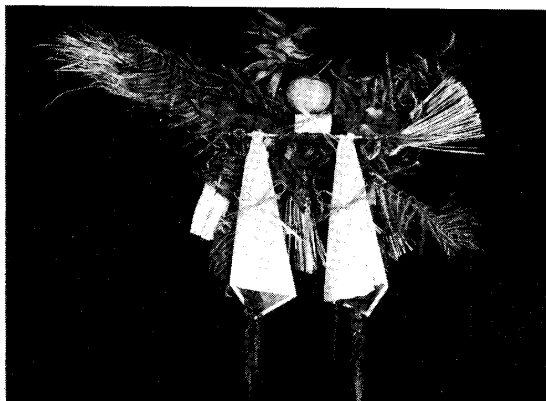
正月の「シメ飾り」=「注連縄」をデザインの見地より調査分析して、注連縄のもつ造形的様相美の再見を目的とする。

II. 調査研究の手続

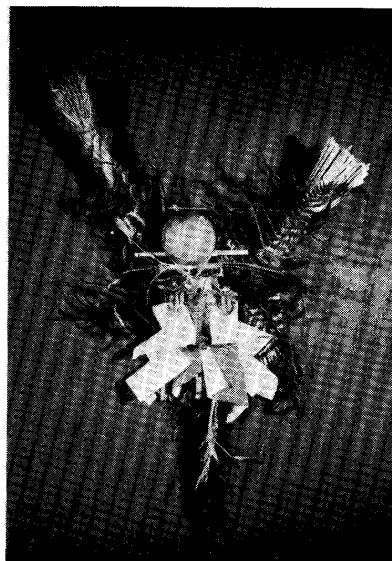
1. 北陸地方（福井県、石川県、富山県）において一般家庭で飾る注連縄。

2. 調査期間

1981年～1982年（各12月26日～12月31日まで）



※福井県 Fig 3-a



福井県 Fig 2-a

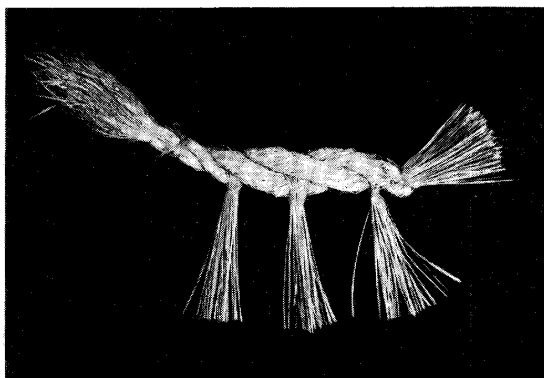


Fig 3-b

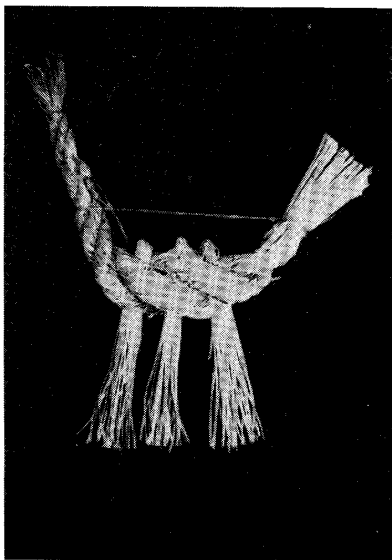
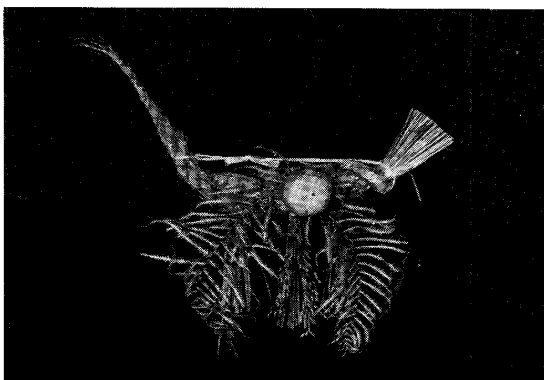


Fig 2-b



福井県 Fig 4-a

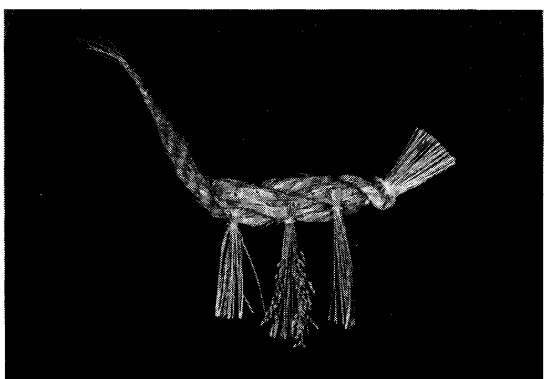
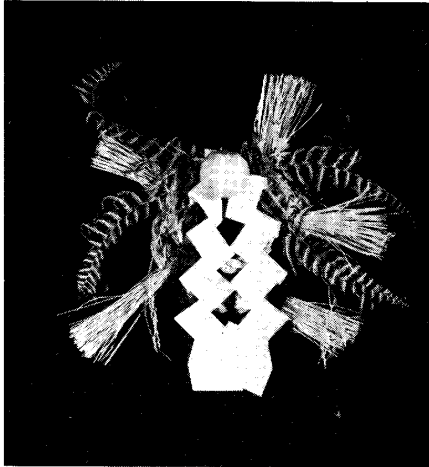


Fig 4-b



福井県・石川県 Fig 5



※石川県 Fig 6-a

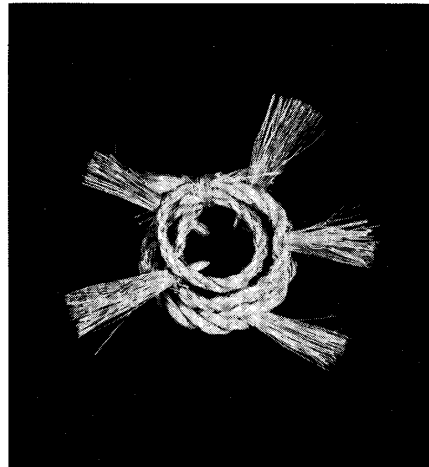


Fig 6-b

3. 収集の手続

北陸地方各県に出向いて収集を行った。

4. 写真による形態の記録。

5. 注連縄の付属物(飾り)を除去した基本
体(基形)の構造分析。

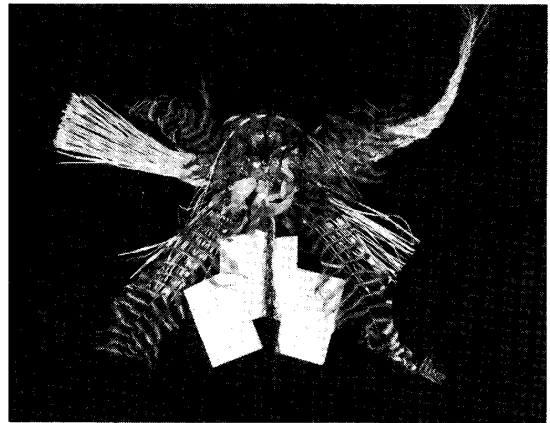
III. 考察と結果

北陸地方の3県では、特に福井県と石川県の注連縄に類似的なものを見た。但し、能登地方の注連縄はその形態、用法共に富山県と同様の伝承である。

主流となる基本形は「牛蒡ジメ」であり、見方によっては Fig 8・Fig 9・Fig10の場合「一文字ジメ」ともいえる形態である。

金沢市内では「輪ジメ」も多くみられた。また、市民会館、役場等の公共施設、あるいは Fig 5のように民家でない場合、前垂注連がみられる。前垂注連は横の長さが100cm~150cmもある大きなものであり、特別注文で作られる。福井県、石川県の都市部でそれぞれ数回みかけた。

さて、各県別に考察をすすめるが、挿図※印は各地域の代表的(主流をなす)形態とみてよい。本研究で使用する形態分類用語は民俗学用いられている4つの分類、つまり「牛蒡ジメ」「板ジメ」「輪ジメ」「一文字ジメ」の4種に「前垂注連」を加えて考察した。



※石川県 Fig 7-a

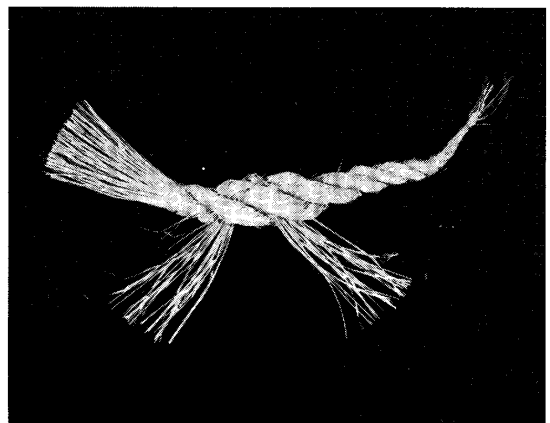
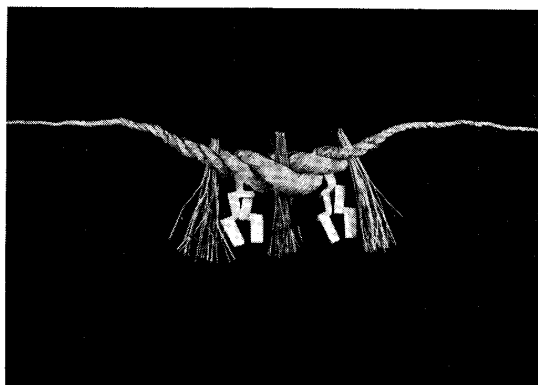


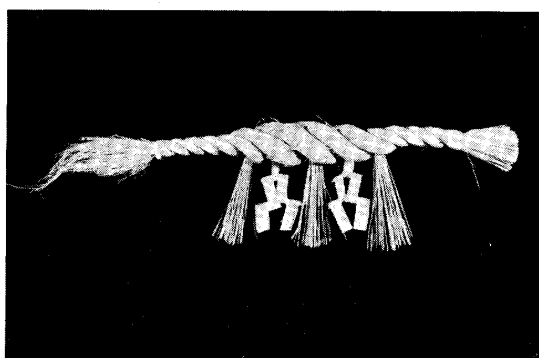
Fig 7-b

1. 福井県 Fig 1—A (牛蒡ジメ、前垂注連)

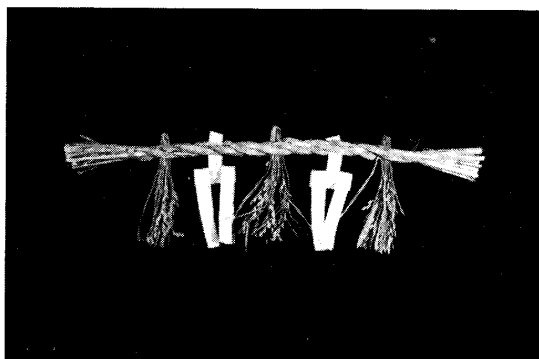
Fig 2—a は福井市内、宝工町で収集した牛蒡ジメである。大ぶりでシメの形が上部に大きく反り返って力強いシメである。図のように御幣は紅白の紙を重ねて水引で結える。さらに中央



石川県・富山県 Fig 8



石川県・富山県 Fig 9



富山県 Fig 10

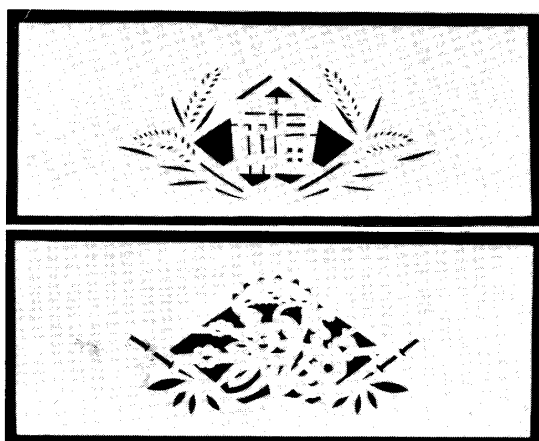


Fig 11

部に真紅の紐であみ上げた言呂合わせの「蝦」を飾り華やかである。他に「だいたい」「裏白」「譲葉」「串柿」「玉藻」等の正月の十飾り¹⁾を飾る。

Fig 2—bでみられるように、シメの中央部が太く、シデは3条さげる。Fig 3—aは同県武生市で収集した牛蒡ジメの注連縄である。これもきわめて大ぶり（55cm）の堂々たるフォルムのシメである。飾りも多く、「御幣」「裏白」「譲葉」「だいたい」「串柿」さらに、左右対称にさげた「熨斗」には紅白の水引を掛け「昆布」をくるむ。Fig 3—bの礎形はFig 2のような反りはなく、いずれの礎形もシデは3条さげる。

Fig 5は、先に述べたように「前垂注連」をベースにして、Fig 3の注連縄を重ねたものである。これは鮎屋のものであるが、市民会館にも同じものをみた。

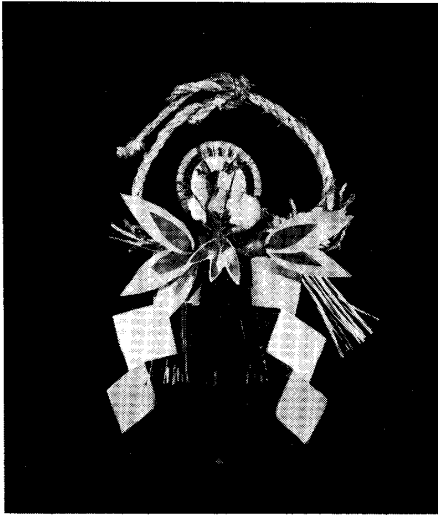
Fig 4—aは、福井県西部、若狭国府のおかれた小浜市で収集したものである。シメを上部に反らせるため左右を紐でつるしてある。飾りは「だいたい」「裏白」である。Fig 4—bのようにシデの中央部に稲穂をさげる。

以上のように主流をなす注連縄を収集することができたが、福井県を全県的にみれば民家に注連縄を飾る風習はかなり、衰退しているとみてよい。

2. 石川県 Fig 1—B（※牛蒡ジメ・※輪ジメ・前垂注連）

Fig 6—aは金沢市内で収集した輪ジメである。飾りは「裏白」「御幣」「だいたい」「譲葉」である。Fig 6—bでわかるように、礎形は3重輪である。注目すべき点を上げると、シデの付け方に特殊なものがみられる。たとえば山口県²⁾、島根県、広島県³⁾、三重県⁴⁾、の場合にも輪ジメはみられるがシデの用法が異り、Fig 6—bのように5条のシデを放射状に付加するものはない。

Fig 7—aは石川県加賀市で収集した牛蒡ジメである。加賀市では古来よりこの様な牛蒡ジ



富山県 Fig 12-a

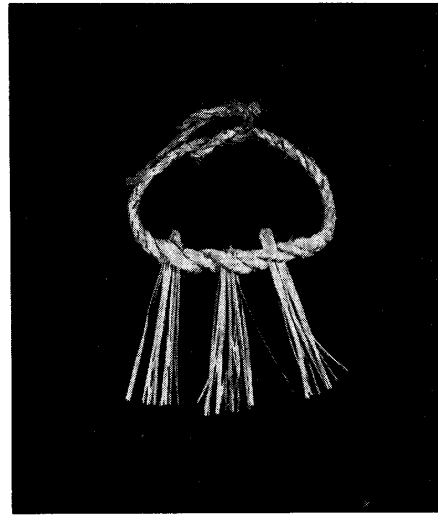
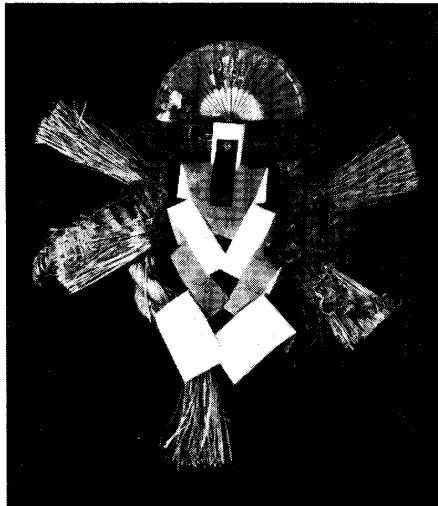


Fig 12-b



富山県 Fig 13-a

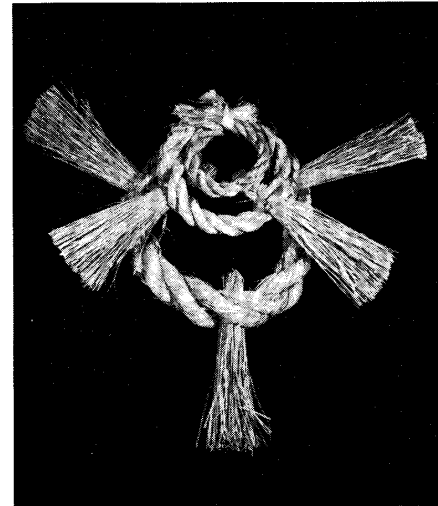


Fig 13-b

メであるという。飾りは「だいだい」「裏白」「譲葉」水引の付いた「扇面」を飾る。Fig 7—bでみられるようにシメの緋が右向きであり、しかも、シデは2条さげる。

さて、石川県北の能登地方は七尾市から穴水町を經由して、珠州市、輪島市を回わる。さらに富来町を經由して羽咋市と能登半島を一周したが、この地方では Fig 8、Fig 9 のような牛蒡ジメである。石川県北部は金沢市を別にして、17町4市があるが、門口に注連縄を飾る風習はみられず、富山県と同様の仕方で牛蒡ジメ、あるいは一文字ジメを屋内にまつる神棚の下に飾る。Fig 8、9、10の注連縄はいずれも富山県と共通の形態であり、最上部に神棚、その下に注連縄、さらにその下部に Fig11のような松竹梅を配した福、あるいは寿などの文字をあしらった剪紙を貼る。この剪紙のほかに数種の墨書がみられ、福壽・豊饒・繁昌・大漁・宝来、等々の祈りや祝い言葉の語呂の良いものを選ぶわけである。大漁祈願の半紙4倍もの墨絵までみかけた。

3. 富山県 Fig 1—c (牛蒡ジメ、一文字ジメ、輪ジメ)

前掲の能登地方の注連縄と同様の牛蒡ジメ、あるいは Fig10のような一文字ジメである。Fig 8、Fig 9、Fig10、をみると、牛蒡ジメ、一文字ジメの判定は明確にはできない。Fig12—aは

